

「概念をつかってケースを読み解く」

サイクル1：信念・身体観 主担当：梅崎昌裕

1. 分析概念 ” 信念 (belief) ” の定義

学習のポイント

Belief ー何かのできごとに対処する際に参照されるような基本的な「考え方」。

Belief はそれぞれの個人が他者とのかかわりのなかで身につけるものであり、通常、自らがアイデンティティをもつ社会の他の構成員と共有されている。

Belief に優劣はない。正誤もない。

「それぞれの Practice の背後にある Belief は何か？」と考える。

同じ医療技術の Practice が社会（文化）によって異なることを、Belief の違いによって説明できないか。

医療人類学では、信念 (belief) という言葉を、ふだんの私たちの使いかたとは異なった意味で定義します。日常的な会話でつかう「信念」には、自分の信じる道というようなニュアンスをふくみます。それぞれの個人は、その人なりの価値観をもっており、それを信念と呼ぶことが多いように思います。一方、医療人類学でつかわれる場合には、実践 (practice) の場面で参照されるような基本的な「考え方」を意味します。信念は、それぞれの個人が他者とのかかわりのなかで身につけるものであり、したがって、自らがアイデンティティをもつ社会の他の構成員と共有されています。

信念は、現代医学の提供する新しい技術をどのように受け入れかという practice に大きく影響するものです。話を簡単にするために、二つの対照的な信念を想定してみましょう。ひとつめは、「命は自分のもの」(A)、もうひとつは、「命は自分だけのものではない」(B) という信念です。(A) の信念を共有する社会では、延命治療を受け入れるかどうかは個人が決めるべきことであり、延命治療を受け入れることで延命以外の回復の見込めない個人への導入は限定的になると予想されます。一方、(B) の信念を共有する社会では、延命治療を受け入れるかどうかには、本人の家族をふくむ社会のメンバーの意向が影響するために、「生きてさえいてくれれば」という希望をもつ家族の意向を反映して、必ずしも延命以外の回復の見込めない個人への延命治療がひろくおこなわれることになるでしょう。

このような信念は、延命治療を提供する医療関係者の側にもあり、(B) の信念をもつ社会に生きる医師は、延命治療の適用にあたり患者の希望だけでなく家族などの希望も考慮することでしょう。日本の医療現場では、他の国に比較して延命治療の件数がおおいかすくないのか、その日本と他の国の違いは、信念を定義することで理解可能となるのか、考えてみましょう。

2. 対照的な信念の例？

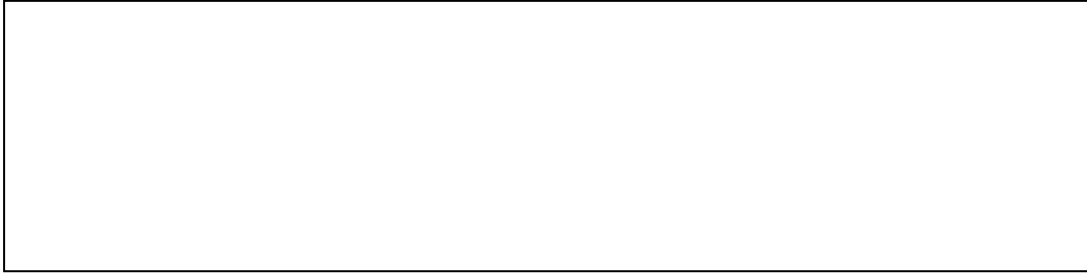
あ. 命は私のものだ。命は私だけのものではない。

い. 命は救えるものだ。命は救えるものではない。

う. 親からもらった体に手を加えるべきではない。これは自分の体だ。

え. 年齢や性別によって命の価値は違う。年齢や性別によって命の価値は変わらない。

お. 他には？



3. 身体観：人間の体がどのようにしてつくられているかにかかわる信念

身体観とは、人間の体がどのようにしてつくられているかにかかわる信念である。現代医学における身体観は、生殖、細胞、DNA、代謝などの医学用語で語られるようなものである。一方、それぞれの文化では、現代医学のそれとは異なる身体観が共有されているのも事実である。そのような身体観はふだんの生活では意識されないようなものであっても、異なる身体観をもつグループ間で、健康あるいは医療にかかわる行動を比較することによって、その存在が明らかに なることもおおい。

この講義では、最初に、「伝統的な」身体観が現代医学のそれにたいして優位性をもっているパプアニューギニアの社会を事例として、「身体観」というものの存在を明らかにする。そして、現代医学の「身体観」が優先する日本などの社会において、その「身体観」の実態を考察し、それが健康行動・医療行動にどのような影響を及ぼしているかを議論する。

4. PNG 高地の身体観

映像教材「ナショナルジオグラフィック」“Blood Initiation”

クマ族の老人ワレップとクムによる、イニシエーション儀礼のときの教示（1953年）

...父は私によくいったものだった。「息子よ、結婚前に、女と交わってはならない。それはよくないことなのだ」。（中略）われわれは若い頃、忠実に、この父の言葉にしたがっていたものであった。だからこそクムと私は、この年になるまで、生きながらえてきたのだ。

だが子どもたちは、われわれの忠告に、耳をかそうともしない。そして彼らは、節操なく女友達とつき合っている。だからこそ、彼らやその子どもたちは、あんなにも虚弱なのだ。この二人の老人を見よ。われわれがどれほど大きいかを。

なぜならばわれわれは、女友達に対し、どのように振る舞えばよいかを知っていたからだ。...

...若い頃われわれは、決して女たちと寝るようなことはしなかった。(中略) それゆえにこそ、今でもわれわれは、こんなにも大きく、そして強いのだ。だが今やわれわれの子どもたちは、女たちと寝て、それについて何も考えようとはしない。彼らは、水(精液)を失っているのだ。そして、彼らの子どもたちは小さく、彼ら自身もまた小さい。

(中略) われわれは、自分の水(精液)に対し、細心の注意を払っていた。だからこそ、われわれの土地さえものが、たくさんの水を含んでいたのだ。われわれがサツマイモや野菜、それにバナナなどを植えていた頃、われわれの畑は、本当に素晴らしいものであった。

だが今やお前たちは、身体の中の水に、注意を払っていない。その結果、子どもたちは小さく、お前たちの畑は乾き、収穫物は乏しい。われわれの子どもたちは、結婚前に女たちと交わっている。彼らは水を失い、結婚したときには乾いてしまっており、もはや子供を持つことはできないのだ。

Luzbetak, L. J. 1954 "The Socio-Religious Significance of New Guinea Pig Festival." Anthropological Quarterly 27: 59-80, 102-125. 杉島敬志 1987 「精液の容器としての男性身体：精液をめぐるニューギニアの民俗的知識」 『文化人類学』4: 84-107、アカデミア出版会

4. 次回への課題

テーマ：身体観は健康行動・医療行動にどのように影響しているか

- ・2人1組でグループをつくる。
- ・グループあたり10分で発表。
- ・「おもしろい」発表。みんなを唸らせて。
- ・授業をふまえて、何を調べるか、何を検討するかをグループごとに話し合う。
- ・よそのグループより優れたプレゼンテーションをする戦略を意識して。
- ・みんなで採点・集計。客観的な評価を知る。戦略の練り直し。

たとえば、以下のようなテーマ。

- ・日本では避妊の方法として経口避妊薬や身体変工は好まれないのはなぜ？
- ・アメリカでは、患者に最大の効果が現れるようにするために一回あたりの服用量ができるだけ多い薬を開発する必要があるという考えが根強いが、日本では、ある程度の治療効果があり副作用も最小限であるような一回あたりの服用量が一番少ない薬を開発する傾向にある。なぜだろう？
- ・日本本政府は、毎日30品目以上の食品摂取を推奨している。米国国立癌研究所は毎日5種類の果物と野菜を摂取するように進めている。なぜ違うのか？
- ・日本ほど抗菌作用のある商品が多く利用されている国はない。なぜか？